

ビキニ水爆実験と福島原発事故——第五福竜丸から現在へ

第五福竜丸被災と1000隻に及ぶ被災船

講師 市田真理さん 第五福竜丸展示館 学芸員

被ばくしたマーシャル島民と福島原発事故

講師 桐生広人さん フォトジャーナリスト／出版労連原発問題委員会委員

3月11日は東日本大震災の日。福島原発が過酷事故を起こしたあの春から9年目でした。もうひとつ忘れてはならないのが3月1日「ビキニ・デー」。66年目を迎えました。

1946年から12年間、アメリカは太平洋中部・マーシャル諸島のビキニ、エニウェトク両環礁で66回の核実験をしました。54年の水爆実験「ブラボー」では第五福竜丸をはじめ約1000隻の日本の船舶が被ばくし、風下のロングラップ島民も米軍に強制避難させられ苦難が始まります。

日本では広島、長崎に次ぐ核兵器の被ばく被害に不安と怒りの世論が巻き起こりました。それにも拘わらず3月3日には国会に原子力予算案が提出されます。アメリカは原子力の「平和利用」と称して、核の負のイメージの払拭を試み、日本に国策として原子力の商業利用（原発）を押し付けたのです。

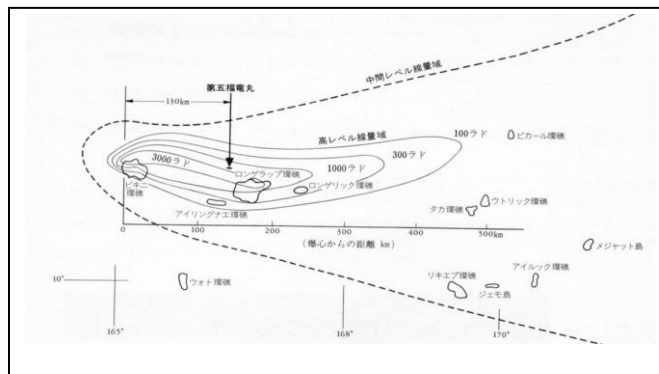
全国へと広がった原水爆禁止署名運動のきっかけである「ビキニ事件」。そして被ばく被害をこうむった島民にアメリカはその原因と責任を後になって認めました。3.11以降の福島を重ねつつ、振り返ってみたいと思います。

- 日時 2020年9月25日(金) 18時30分～20時45分(予定)
- 会場 文京区民センター2A (地下鉄丸の内線・南北線「後樂園駅」徒歩5分 都営三田線・大江戸線「春日駅」徒歩2分)
- 参加費 無料 ●問合せ TEL: 03-3816-2911 / E-mail: sakai@syuppan.net (出版労連)

★開催にあたっては最大限「3密」を回避する措置をとるようにいたします。



第五福竜丸



水爆ブラボー「死の灰」の広がり



2011.7 福島駅前 (測定値 3.25μSv は右端男性の足もとと植え込み表面の放射線量)

▶▶講師プロフィール

市田真理さん 第五福竜丸展示館学芸員。著書『第五福竜丸は航海中——ビキニ水爆被災事件と被ばく漁船60年の記録』(共著、2014、第五福竜丸平和協会)『ポケットのなかの平和—わたしの語りつぎ部宣言』(2011.1、平和文化)他。

桐生広人さん フリーフォトジャーナリスト。国際グリーンピースによる太平洋での核実験反対キャンペーンに従事(1975)。チェルノブイリ原発事故の被ばく者、英仏の再処理工場放出放射能による被ばく者の取材など。著書『南の島のヒバクシャ』(1990、リベルタ出版)『福島原発事故甲状腺リスク 改訂版』(2015、Kindle版)他。